

## 平成19年度 第2回 芦屋市立青少年愛護センター運営連絡会会議要旨

日 時	平成19年2月20日(水) 10:00~11:50
場 所	芦屋市立体育館・青少年センター第1研修室
出席者	新井野久男(委員長) 極楽地英子委員、山本範雄芦屋警察署長、 中尾滋男委員、三井英美子委員(小学校代表)、車谷博巳委員(中学校代表)、 牧野君代委員、杉岡菊子委員
事務局	教育長 藤原周三、社会教育部長 松本博、青少年愛護センター主査江藤 博之、指導主事 小川文夫、主事 磯野一夫
会議の公開	公開
傍聴者数	0人

### 1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 議題

### 2 提出資料 平成19年度第2回芦屋市立青少年愛護センター運営連絡会レジュメ

### 3 審議経過

#### 開会

(事務局) 平成19年度芦屋市青少年愛護センター運営院会を開催します。最初に教育長から挨拶をお願いします。

(教育長) 皆さんご存知のように、先週あってはならないことが起こりまして、我々としては夢にも思っていないことに波及し担当者が逮捕されるという事態になりまして非常に心痛め、昨日もちょうどこの時間帯に愛護委員の皆さんにお詫びを申し上げたところでございます。本市の職員がしでかしたことにお詫び申し上げるところです。このような中でセンター職員はがんばってくれております。また、来年度に向けてよりよいセンターになるように教育委員会側も取り組まなければならないと思っております。

さて、今私が一番気になっていることがございます。公立の小学校から公立の中学校に行く割合が、64~5%だったと思いますが、逆に私学の中学校に進学する子どもが、35~6パーセントになっている。学校によっては、7割ぐらいが私学に言って3割ぐらいが公立の中学校に行く現実がある。これは年々その傾向がある。芦屋市全体の中で見た時公教育とはどうあるべきなのか？市民の中に公は頼りにならない、私のほうが頼りになるという状態があるんじゃないか、ということが非常に気になっている。もう一つ別の見方からすると、我々公教育を受け持つ側からする

と私学行った子ども達が、公立に戻ってくる子ども達の生活面を含めこの対応が非常に苦しくなってきたおる、これだけ私学、私学と言う中で芦屋の公教育がどうあるのか、今非常に苦しい状況にあると思われます。私学へ行った子どもの中で心身ともに悩みを抱えている子どもが公立に帰ってくる。そのような子どもを抱えて、子ども達の健全育成のために公教育がどうして行くのか私たちは悩んでいるところであります。以前公立へ行く子供たちが順調に増えていた時があったのですが、今年特に私学志向が強く、特に市の真ん中辺りの私学志向が従来に増して強くなってきている。今後この状況をどう捉えていったらよいか、とりとめもない話になるわけですが、私たちは非常に悩んでおると言う現状をお話しして挨拶とさせていただきます。

(事務局) ありがとうございます。ここで新メンバーの芦屋警察署長をご紹介申し上げます。

(警察署長) 山本です。よろしくお願ひします。

(事務局) それでは委員長の新井野先生より開会のご挨拶をお願いします。

(委員長) 運営委員の皆さまご多忙の中お集まりいただきましてありがとうございます。

さて、毎月センターより“愛護だより”また愛護班ニュースという非常に中身の濃い情報提供をしていただきありがとうございます。本当に地道な活動が行われていると言うことを強く感じました。私は以前神戸市の中で教育行政、また学校で子ども達の健全育成にさまざまな形で関わってきたわけですが、所帯が大きいものですからどの地域でどのような活動が行われているのかなかなかつかめない、それに比べまして芦屋の活動は現役のPTAの方が、子ども達の健全育成のためにがんばってもらえる、またOBの方も現役の方を応援されている。よく言われますように家庭、地域、学校の三者連携と言うのはいつの時代でも重要なことではないかと思ひます。そのようなことがこの芦屋では十分な成果が上げられていると思われます。子ども達を取り巻く状況はなかなか好転しませぬ。虐待の話しや最近では身内の殺人、それに子ども達が巻き込まれるという悲しい状況があります。

話が変わりますが、先ほど教育長がおっしゃいましたが、公立離れが深刻な状況です。芦屋という土地柄がありますが、公立離れが進んでいる。公立学校というのはいかに特色作りをしていかなければならない、つまりわかる授業、子どもが学校に来て楽しいと思ひ、そのようなシンプルなことを原点に取り組むことが必要なことではないかと思ひわけです。

(事務局) それでは事業報告をさせていただきます。(レジュメにそって)

(委員長) 皆様ご質問をどうぞ

(極楽寺委員) 有害図書回収ポストがあると始めて知ったのですがどこに設置されているのですか。

- (事務局) JR 芦屋南側、阪神打出駅北側、市役所駐車場(阪神タクシー乗り場南)、浜ダイエーバス停横です。
- (三井委員) 青色パトロールはどのような形で巡回されているんですか。
- (事務局) 2号線より上、山手地区を愛護センターと教育委員会で回っています。精道中学校校区と浜地区は芦屋市の職員とシルバー人材センターで回っております。
- (松本部長) 所管は市民参画課で、現在、計3台で見回りをしております。
- (車谷委員) 潮見中学校校区では痴漢の被害も出ており、見回りは大切であると思っております。
- (三井委員) 下校については集団下校、または、学年下校の形をとっております。
- (委員長) 勤務先の関係で岩園地区を通るのですが、お母さん形が道々煮立っておられるのをよく見かけます。私の家は明石なのですが、学校の周りをガードマンが今でも回っております。
- (牧野委員) 先日芦屋市の防犯ネットワーク交流会があったのですが、芦屋では90パーセントの組織率であると聞いています。防犯教会の人たちも下校見守りをしていただいています。ただ親の意識が問題で、子どもの安全は地域の人に任せていけばいいんだという意識があるようで、そのようなことが問題点だと言う指摘がよくあります。
- (警察署長) 昨年1年間で子どもに対する声掛け事案が37件ございました。芦屋は防犯意識が非常に高い。通報も非常に多く、防犯意識の高さが表れているわけですが、少年関係についての情報もいただきたいと思っています。
- (中尾委員) 教育委員会も青少年の愛護ということで各機関と常々連絡を密にしているわけですが、中学校での取り組みとして3年生を対象にキャンプの講習会を予定しております。また、スクールガードリーダーに見回りをお願いしているところです。
- (委員長) ほかにご質問がなければこれで閉会とさせていただきます。